

## 圃場マップデータの詳細分析



圃場マップデータの詳細分析は[分析]をクリックすれば全ての地図が表示され、マップのデータに基づいての比較や分析もできます。

- 1) バイオマスマップ
- 2) パワーゾーンマップ
- 3) 雑草分類
- 4) 土壌マップ
- 5) 標高
- 6) 斜面
- 7) 標高と斜面の組み合わせ
- 8) 播種マップ
- 9) 収量マップ
- 10) 散布マップ
- 11) 散布精度
- 12) カスタム (未実装)
- 13) 土壌マップ (NARO)
- 14) 平均植生 (NDVI)

## マップの表示

- バイオマスマップ、パワーゾーンマップ、雑草分類、平均植生 (NDVI)

状態の変化を表す過去のマップを日付で確認できます。マップに関する簡単な説明は[凡例]で確認できます。



- 土壌マップ、土壌マップ (NARO)

土壌マップは ISRIC (国際土壌照合センター) のデータを表示していて、以下のプロパティが含まれています。

- 1) 仮比重
- 2) 陽イオン交換容量
- 3) 粘土含有量
- 4) 岩片
- 5) 有機物
- 6) pH-水ベース
- 7) 砂含有量
- 8) シルト含有量
- 9) 土性



土壌マップ（NARO）は日本の農研機構のデータを表示していて、以下のプロパティが含まれています。

- 1) 土壌種類
- 2) 土性
- 3) 最大容水量：土壌が保持できる最大の容水量、孔隙が飽和した時の体積水分率。
- 4) 圃場容水量：大雨が降った後、おおむね 24 時間後の体積水分率。
- 5) 初期しおれ点：土壌の乾燥が進行し吸水が困難になり、作物がしおれはじめる時の体積水分率
- 6) 永久しおれ点：さらに水分が減少し、しおれた後に水を補給しても作物が生存できなくなる体積水分率。
- 7) 飽和透水係数：土壌の水の通り易さを示す値で、値が小さいほど透水性は低く、水田で望ましい値は 20～30 mm/日。畑地では値は大きいほど良い。1 以下の土壌は難透水性土壌と呼ばれる。
- 8) 易有効水分量：圃場容水量と初期萎凋点の差、普通畑では深さ 0～40 cm では 5 % 以上であることが望ましい。



- 標高、斜面、標高と斜面の組み合わせ

標高マップ、斜面のマップ、透明の標高マップを斜面の上に重なった状態のマップです。

- 播種マップ、収量マップ

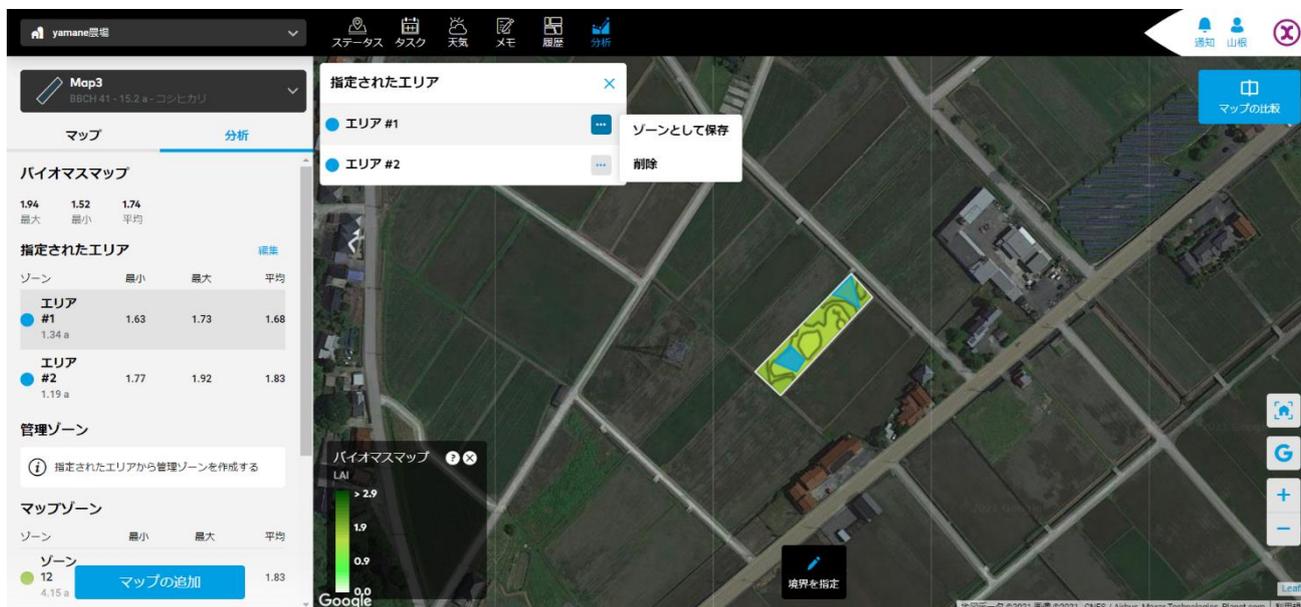
農機などで得られたマップをアップロードして表示できます。

- 散布マップ、散布精度

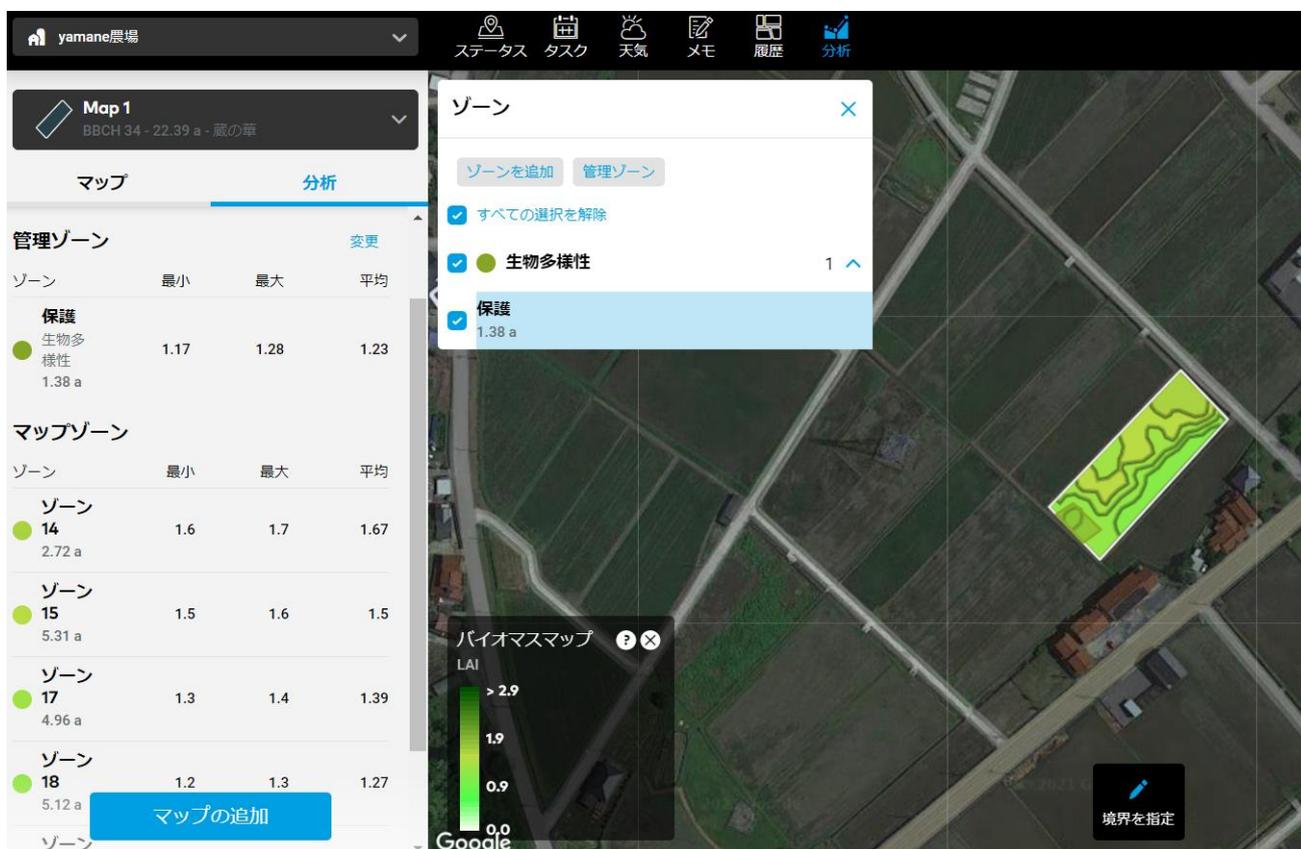
農機で作成した散布マップとこちらで作成したマップと比較すれば散布精度が表示されます。

## マップの分析

マップの一部分のデータを確認する場合、[境界を指定]で場所を指定できます。指定された場所のデータは[分析]で表示されます。



管理ゾーンと比較する場合、管理ゾーンのデータが[管理ゾーン]に表示できます。バイオマスマップとパワーマップは当圃場のすべてのゾーンが[マップゾーン]に表示されます。



二つのマップを比較する場合[マップの比較]を使って対象のマップを選択して、比較します。



サービスの詳細やご利用開始のお問い合わせは  
こちらまで

0120-014-660  
japan@xarvio.info  
www.xarvio.com